

ゼミ活動等学生の活躍

本学Webサイトに掲載された記事を中心に紹介します。<2023年11月~2024年6月>学生の学年は、記事掲載時の情報です。

法学部の学生が世田谷区主催「せたがや会議〜みんなで考える多文化共生のまち〜(2023年度版)」に、グループ・ファシリテーターとして参加

2023年12月16日、世田谷区内の三茶しゃれなあとホールにおいて、世田谷区主催による外国人住民との意見交換会「せたがや会議〜みんなで考える多文化共生のまち〜(2023年度版)」が開催され、本学法学部の学生がグループのファシリテーターとして参加しました。今回のせたがや会議では、外国人住民の声・視点を取り入れた世田谷区の多文化共生に関するリーフレットの案を作ることを目的に活動を行いました。参加者はアイスブレイクの後に10グループに分かれ、多文化共生について再定義し、リーフレットの内容やレイアウトについて意見を出し合いました。



経済学部 伊藤篤ゼミの学生が量子アニーリングアイデアソンで入賞

2024年5月25日に開催された「量子アニーリングアイデアソン」において、伊藤篤ゼミ2年の黒沢勇人さんのアイデアが「革新的アイデア賞」に選ばれました。「量子アニーリング」とは、量子コンピュータの実現方式の一種であり、組み合わせ問題に特化した技術のことです。このアイデアソンは、日常生活に隠れた組合せ最適化問題に気づき、それをどう解決するかのアイデアをみんなで出し合うために開催されました。ここで「組み合わせ問題」とは、複数の選択肢の中から最適解を発見するというものです。参加者は20名で、最初に予選として、各自が2~3件のアイデアを出しました。問題を定義するにあたり、選択肢、目的関数(何を最大化/最小化するのか)、制約条件の3つを明確化することが求められました。



商学部 関根正敏ゼミの学生が長野県佐久穂町の魅力を伝える「サクタビ」を開催

2023年9月9日、10日に、府中市民を対象に、食・人・自然を体験するファミリーキャンプ「サクタビ」を佐久穂町で開催しました。府中市と佐久穂町の地域課題を調査し、「府中と佐久穂のひをつなぎ、持続的なまちづくりに貢献する」という理念を掲げてきました。これまで姉妹都市交流に関わりが少なかった「ファミリー層」に注目し、イベントを通じて佐久穂町に興味を持ってもらうことや、訪れた人に佐久穂町を好きになってもらうことを目指して活動を続けてきました。



経済学部 飯島大邦ゼミの学生がISFJ日本政策学生会議にて分科会賞を受賞

2023年12月16日、17日に開催されたISFJ日本政策学生会議2023年度政策フォーラム(後援:公益財団法人 松下政経塾、30大学48研究会124研究班参加)にて、経済学部飯島大邦ゼミが農林水産分科会の「分科会賞」を受賞しました。選考は、事前に提出された論文審査、12月16日に実施されたプレゼンテーション審査により行われました。受賞内容:分科会賞(農林水産②分科会) 論文タイトル:「飼料用米の生産拡大並びに安定利用に向けて」 論文著者:木村大地(国際経済学科3年)、林陽介(経済情報システム学科3年)、吉野樹(経済学科3年)



商学部 武石智香子ゼミの学生チームがデータサイエンス・アイデアコンテストで最優秀賞を受賞

2023年10月29日、法政大学市ヶ谷キャンパスにて開催された、3大学(関西・中央・法政)共催 データサイエンス・アイデアコンテスト(協賛 マイナビ)の最終選考会において、商学部武石ゼミ3年生のチーム・コップンカーは最も評価の高い発表に送られる最優秀賞と、参加者によるお互いの評価で決定するオーディエンス賞を受賞しました。同コンテストは、関西大学、中央大学、法政大学の学部生、3大学に付属する高校の生徒を対象に、日頃のデータサイエンスに関する学びを実践する場として、株式会社マイナビの共催により開催されました。最終選考会には3大学計10組の個人またはグループが選出され、プレゼンテーションと質疑応答でデータサイエンスの知識を活用した分析と、アイデアを競いました。



商学部 斎藤正武ゼミの学生が「学生ITコンテスト2023」で入賞

2023年12月5日にホテルプラムヨコハマで開催された「学生ITコンテスト2023」に、商学部斎藤正武ゼミの学生チームが参加し、ビジネス企画部門で入賞しました。一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会が主催する「ITコンテスト2023」は、大学生・大学院生、専門学校生を対象にIT業界の未来を創造する斬新なアイデアを発表する場を作り、学生が企業と交流することで人材育成を図り、IT業界の夢ある展望を一緒に考えることを目的としています。



文学部心理学専攻 有賀敦紀研究室の学生が副業トラブル注意喚起動画を監修

文学部心理学専攻 有賀敦紀教授、文学研究科大学院生の牧野博大さん、久保夏海さん、佐々木浩汰さんが日本貸金業協会から依頼を受け、副業トラブルの注意喚起動画を監修しました。国民生活センターによると、副業や投資に関する情報教材を購入した消費者が、高額なサポート契約に勧誘され、「お金がない」と断っても遠隔操作アプリを悪用して借金をさせられる手口が目立っているようです。



理工学研究科情報工学専攻博士前期課程の学生が日本OR学会2024年春季研究発表会にて「学生優秀発表賞」を受賞

2024年3月7日、8日に筑波大学にて開催された日本オペレーションズ・リサーチ学会(OR学会)主催の2024年春季研究発表会にて、理工学研究科情報工学専攻博士前期課程2年の丸橋奏音さん(数理最適化研究室所属)が、学生優秀発表賞を受賞しました。丸橋さんは『低頻度公共交通地域における曜日運行バスの時刻表設計』というテーマで発表し、学生会員の中から優秀な発表としてOR学会実行委員会より選定され、表彰されました。OR学会は、オペレーションズ・リサーチの研究および応用を促進し、オペレーションズ・リサーチの進歩と発展を通じて、文化と産業の発展に寄与することを目的として設立されており、毎年春と秋に研究発表会を開催しています。



国際経営学部 飯田朝子ゼミのチームが、大学対抗ビジネスコンテストで準グランプリを受賞

2024年1月17日、飯田朝子ゼミのチームびえん(第3期生の山本裕希乃さん、岩下晶太さん、サブジャン・ハイカル・モハammadさん)の企画『地雷ブリクラ』が最終プレゼンテーションを行い、準グランプリを獲得しました。『地雷ブリクラ』は、1980年代に人気を博したアルファミュージック所属のアーティスト・戸川純さんの楽曲の歌詞の世界観をブリクラで体験し、楽曲と共に写真をSNSで拡散させるビジネスモデルを構築したもの。米国やインドネシアをはじめとする国際市場の開拓の可能性についても分析を加えました。



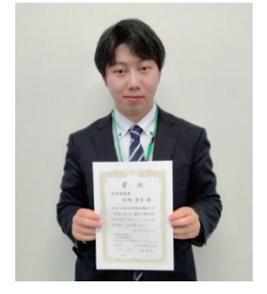
総合政策学部の学生が町田市事業評価参加に向けてのキックオフミーティングを開催

2024年5月30日に中央大学にて、町田市事業評価参加に向けてのキックオフミーティングを開催しました。中央大学総合政策学部と町田市は2024年4月に「行政経営改革に関する連携協定」を締結しており、総合政策学部からは中村周史研究室が有識者評価人として2024年度「町田市市民参加型事業評価」に参加するほか、事業評価の運営にも携わります。町田市からは事業評価の趣旨やスケジュール、中大生に期待する役割の説明がありました。学生たちは身近な体験を基に活発な意見を交わし、キックオフミーティングは盛況のうちに終了・閉会を迎えました。



理工学研究科電気電子情報通信工学専攻博士前期課程の学生が2.5次元物質科学第6回領域会議にて若手奨励賞を受賞

2023年12月26日、27日に名古屋大学で開催された2.5次元物質科学第6回領域会議で、理工学研究科電気電子情報通信工学専攻博士前期課程1年の松崎勇斗さんが若手奨励賞を受賞しました。受賞内容 発表タイトル:全印刷かつ機械的に位置合わせ可能なCNT膜型広帯域イメージセンサアレイ 発表形式:ポスター



国際情報学部の学生が「関東デジタルコンテンツ・アワード2023」で関東総合通信局長賞を受賞

2024年3月22日、国際情報学部の学生団体めりっ(佐川峻太郎さん、中西渉さん、遠藤藤さん、山中媛乃さん)の作品が「関東デジタルコンテンツ・アワード2023」で関東総合通信局長賞を受賞しました。授賞作品「八王子しりとり」は、学生の視点から八王子市の魅力を30秒のCM動画にした作品で、国際情報学部のゼミ「国際情報演習」(担当教員:村田雅之)における学修の成果物です。

